

## 京都大学学びコーディネーターによる出前授業の実施

昨年度に引き続き、京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している学びコーディネーター事業を利用して、1 学年を対象に講演会を開催しました。



本講演会では、京都大学の大学院工学研究科社会基盤工学専攻の学生の方に、『うまく壊す』科学の現場をみてもみようをテーマに講義を行っていただきました。高校生にとってはあまり身近ではないトピックでしたが、いくつかの橋の写真を紹介いただきながら、土木の 3 要素である用・強・美について学びました。講義の後半は、実際に講師の方が行っている研究についてでした。一口に研究といっても、それを成し遂げるまでにいくつかのプロセスと長い準備期間があることを知り、最先端の研究の様子を垣間見ることができました。また、シミュレーションによる研究の方法や注意点についての説明をしていただき、研究手法への理解が深まりました。

### <生徒の感想> (一部抜粋)

- ・一言で「壊れる」といっても意味が異なることを知りました。
- ・用・強・美の 3 つの観点があることを知り、いつもの通学路にある建物をそのような視点で見てもよと思いました。
- ・どんな実験においても、「なんでそうなったの?」という理由を考えることが大切だと学びました。2 年生のヴェリタスでは自分の研究テーマに対して、常に理由を考えることが大切だと思いました。